



若い人の就職難

新卒の大学生、高校生の就職内定率が下がっている。勉強して、これから社会に巣立とうとする若者なのに。

経済界は景気が悪いと人件費を削減しようと、すぐに新卒採用を削る。確かにすぐ熟練者のように働ける訳でもない新卒者は何年かはお荷物かも知れない。でも何年か先の会社の活動の為には若い人を今入れる必要があるのだ。

財界人は、日本人の新卒を雇うより中国に工場を作った方が人件費が安くて良いと思っているかも知れない。当面は年金生活者向けに物が売れるかも知れないが、若い人の仕事が無かったり、低賃金の派遣労働では、次の世代は物を買うことが出来ない。既に、車など若い世

代には余り売れなくなっている。こままでは、日本経済はじり貧だ。

97年以降、労働者の平均賃金は低下する一方、大企業の内部留保は142兆円から244兆円に100兆円も増えている。例え、一時的に赤字になっても、その内部留保を崩して、若い人の雇用を増やし、派遣などから直接雇用の安定雇用とし、賃金を上げれば、若い人の購買力が増え、景気も上向いてくる。

財界は、賃金切り下げ競争に走るのではなく、将来を見据え、日本経済全体の底上げになるようにしなければ、将来が無いと思います。皆さんはどう思われますか？



三浦半島 武山から南を望む

高校生の頃、この武山にクラスでハイキングに行きました。当時、京浜急行は浦賀までで、今の京急長沢近くまでバス。そこから、三浦富士、砲台山を経由して標高二百メートルの武山に達しました。武山の頂き近くには躑躅(つつじ)が沢山ありました。躑躅は英語でアゼリアなので、その休憩所は「アゼリアハウス」と名付けられていました。当時はジュースやお菓子、弁当なども売っていました。この絵を描いた二〇〇七年にも、そのアゼリアハウスは残っていましたが、売店は無く、無料休憩所となり屋上は展望台となっていました。

そこから南を向くと、三浦半島の先端が見えます。その先に、空気が澄んでいると伊豆の大島や三宅島が見えます。左の海岸は夏は海水浴客で賑わう三浦海岸です。